

と樹林とが景観の要素としてたくみにとりいれられている。こうして自然との融合をはかってきた昔の人の心の豊かさに、あらためて感服させられた。私たちの心をも豊かにしてくれるこうした文化遺産の保存には、十分な対策が施されなければならないと思った。

## 指 輪 の 話

貝 山 久 子

私の手は女にしてはずい分大きい。てのひらが大きい上に指が長いので、手袋を買う時いつも苦労する。その指も太くてゴツゴツしていて白魚には程遠く、せいぜいわかさぎ位である。昔読んだ小説に、ある地方では手の大きい女は働き者であるが同時に生れが賤しいとされているので、主人公の娘が自分の大きな手を羞じて、人前に出るときいつもかくしている、というのがあった。私は別に手の大きなのを羞かしいと思ったことはないが、宝石で飾るにはふさわしくない手だという思いが、少女のころからかなり長い間心を支配していた。それで結婚してからも所謂カマボコ指輪しか用いなかったが、ある時アフリカからのお土産にトパーズを頂いたので大決心の末指輪に加工して貰った。その細工が大変気に入ったのと、指輪が似合うとほめられたのに気をよくして愛用している中に、変化を求めて更にいくつかを手に入れ、かわるがわる使っていた。しかし数年前にブラッドストーン指輪を買ってからは、ほとんど一辺倒になってしまって、濃緑に朱色の小斑のあるこの半貴石の指輪を手離すことができない。それは石が気に入っていることその他に、誕生石であるからかもしれない。

花に花言葉があるように宝石には石言葉があり、また宝石にまつわる伝統も多いことから特殊な宝石を12ヶ月にわりあてたのが誕生石で、その起源は1世紀にさかのぼると云われている。しかし実際に使用されたのは18世紀頃からのようで、ところによって多少の相違があった。そこで、1912年カンサスシティで開かれた宝石組合の大会の席上、その統一が申しあわされたという。この決定に基づいた久米氏の説と、地学教育辞典の柴田氏の説を掲げるが、6月以外は概ね共通している。

久 米 氏

柴 田 氏

1月 柘榴石

ざくろ石

2月 紫水晶

紫水晶

3月	血石又は水緑柱石	血滴石
4月	ダイヤモンド	ダイヤモンド
5月	エメラルド	エメラルド
6月	真珠又は月長石	めのう
7月	ルビー	ルビー
8月	紅縞瑪瑙又は橄欖石	サードオニックス
9月	サファイヤ	サファイヤ
10月	蛋白石又は電気石	オパール
11月	黄玉	トパーズ
12月	土耳其石又は青金石	トルコ石

誕生石を身につけていると悪を除き幸福をもたらすと云われている。勿論科学的な根拠があることではないからいうなれば迷信の類であろう。私は日頃迷信や方位、星まわりなどととらわれない人間であると自負しているのだが、それにもかかわらずブラッドストーンに執着するのはやはり人間的な弱さに起因するのであろうか。とまれかくまれこの石のもつ聰明・沈着・勇敢の3つの徳目が、指輪と同様つねに我身にそなわっていてほしいものである。

## 教育というもののもつ力

別 技 篤 彦

松井先生の御退官にさいし、永年の御研究と教育上の御努力に深い敬意をささげるとともに一言所感をのべさせていただきます。

人間がどういう道を生涯のコースとしてえらぶかはもとよりその人の資質や意志が最終的な決定条件であるが、それを刺戟し育成するための教育はより一層重要なものと思われる。しばしば個人的な師の影響も含めて幼いときどんな教育をうけたかがその人の人間形成に与える結果は決して過少評価されてはなるまい。こういふことを思うのも実は私は松井先生と同じ東京府立五中（今の小石川高校）の出身であり、先生は私の1年先輩に当るからである。そして何かふしぎなことには五中からはたくさんの地理学者が出ていることである。飯塚浩二さん（故人）を手はじめとして松井先生、吉村信吉（故人）、室賀信夫、川上健三、田辺健一、清水馨八郎、斉藤光格、風巻義孝の諸